

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:155.

糖尿病看護における困難な内容からみたスタッフ教育の方向性

平間幸子、工藤愛美、三浦美佳

糖尿病看護における困難な内容からみたスタッフ教育の方向性

旭川医科大学病院 平間 幸子、工藤 愛美、三浦 美佳

【目的】

糖尿病看護に携わるスタッフは、熟練し経験が深いことが求められる。当病棟では看護師経験・糖尿病看護経験の少ないスタッフが多く、病棟全体の看護の質の向上が重要である。今回、糖尿病看護で困難と感じている内容を調査し、スタッフ教育の方向性を示唆できたので報告する。

【方法】

対象：A 大学病院、B 病棟看護師 17 名。

調査内容：糖尿病看護で困難と感じている内容について自由記載でアンケート調査を行った。

倫理的配慮：主旨・秘密の厳守・参加の自由について説明し、参加同意を得た。

分析方法：類似性のあるものを抽出しコード化し、更にカテゴリー化した。内容に影響していると考えられる要因を抽出した。

用語の定義：当院クリニカルラダーを基に看護師経験 0～3 年目を新人、4 年目以降を中堅とした。糖尿病看護経験が 0～2 年目を経験が少ない・3 年以上の看護師を経験が多いとした。

【結果】

分析の結果、糖尿病看護で困難を感じている 135 のコードから 23 のサブカテゴリー、14 のカテゴリーが抽

出された。更に影響していると考えられる 3 つのコアカテゴリーを導き出した。

『専門分野の知識に関連した困難な内容』では、糖尿病看護経験が少ない看護師は、【食事療法】などの患者教育で「基礎知識の不足」を示していた。糖尿病看護経験の多い看護師は、「病状にあった指導」が示され、患者や患者背景が複雑な場合に介入の困難を感じていた。

『システムに関連した困難な内容』では、中堅は【多忙な業務】などの業務改善を多く示していた。【連携】では、「他職種との情報交換」といった医療チームの体制を考えていた。

『アセスメントに関連した困難な内容』では、新人は【看護診断】で「妥当性」「基礎知識の不足」が示され、看護診断の知識や理解が不足していた。中堅は「疾患を受容できない患者」「目標の共有」があり、患者と共に目標を設定し解決策を導くことに困難を感じていた。

【考察】

糖尿病看護・看護師経験年数に合わせ、専門的基礎知識・看護診断の基礎知識の提供を行い、実践可能な看護基準の整備を行う必要がある。また、中堅に対しては業務体制やシステムを調整し介入を円滑に実践できる環境を考えていく。